

講義名	連結財務諸表論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	島田 奈美		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

企業は、投資家から出資された資金を元手に企業活動を行うが、投資家にとって投資先の企業の経営状態は大きな関心事である。そこで企業は一定期間ごとに財務諸表を作成して投資家に情報提供することが義務づけられている。近年まで企業の決算は、個々の独立した単独の企業ごとに行われてきた。しかし、現在では企業経営の拡大発展に伴い、子会社など関係会社を設立して集团的・多角的な経営が行われている。このような状況下で、個々の企業により別々に作られた財務諸表だけでは、企業集団としての経営活動の状況を十分に把握することができない。このため、企業集団の財務状況を示す財務諸表、すなわち連結財務諸表の作成の必要性が生じたのである。本講義では、連結財務諸表の必要性やその重要性が高まった背景や基礎概念などを学習した後、連結財務諸表（連結損益及び包括利益計算書、連結貸借対照表など）の作成方法・読み方を学んでいく。

到達目標

連結財務諸表が主要な財務諸表となった背景を理解する。
連結会計の基礎知識を理解する。
連結財務諸表の作成方法を理解する。

提出課題

毎回理解度を確認するために講義中に課題を課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

講義毎に前回の課題の採点基準及び重要部分について解説を行う。

評価の基準

- ・毎回講義の理解度を確認し、これを平常点とする。（50点）
- ・期末テスト（50点）

履修にあたっての注意・助言他

連結財務諸表論は個別企業の会計を前提にして組み立てられている。このために、個別会計の考え方や会計基準等を理解しておく必要がある。よって、本講義を履修する前に、「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」「財務会計論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましく、簿記・会計の知識無しに履修した学生には単位修得は難しい。

教科書	. 使用しない。
プリント資料及び参考文献	毎回資料を配布する。欠席届の提出者以外には時間外の配布は行わない。

授業計画

1. 連結財務諸表論で学ぶこと
2. 個別企業の会計① 株式会社の設立
3. 個別企業の会計② 投資その他の資産
4. 個別企業の会計③ 投資その他の部
5. 個別企業の会計④ 企業結合
6. 連結範囲と連結会計の概要
7. 資本連結① 100%取得
8. 資本連結② 部分取得
9. 資本連結③ のれんの処理
10. 子会社の資産・負債の時価評価
11. 支配獲得後の連結会計
12. 段階取得
13. 未実現損益の消去
14. 持分法
15. 連結財務諸表の作成

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義の内容は理論半分、計算半分である。簿記の講義と同じく知識を積み上げていくので、配付資料中の練習問題を復習し、次の講義までには理解をしておく必要がある。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考